

探検・探査

第 10 号

(2003 年 11 月 1 日)

- 探検部の現役がポリネシアのツバル国に偵察隊をだしました
- 大先輩の大野会長も宮寄さんも元気です
- OB 会の運営は曲がり角に来ています
でも、ここを乗り切るために、みんなの知恵を待ってます
- 阪神タイガースに関する仕事をした OB が二人います
- 会費を滞納している人は、できる範囲で払ってください

横浜市立大学 探検・探査の会

どこへ行くの？

そんなに大きなもの持つて

そんなに大事に抱え込み

いったい君はどこ行くの？

汗をびっちょりかきながら

周りをきょろきょろうかがって

よっぽどそれは大切みたい

みんなうろうろしているだけで

いったいどこに行ったらいいか

忘れてしまっているみたい

どこに行くかもわからずに

そんなの持つて歩いていたら

疲れてしまふだけだから

みんなが求めるその場所に

たどり着くことできないうちに

何も見えなくなっちゃうよ

君の大きなその荷物

誰も知らない秘密の場所に

置いてゆっくり深呼吸

大きな一步を踏み出して

ゆっくりゆっくり歩いてこ

伊吾田順平（いごた・じゅんぺい）

1974年神奈川県横浜市生まれ

大学在学中より執筆活動を開始し、詩や童話を中心に全ての世界においての人間のありかた、そして人間が忘れてしまった何かを追い求める、流浪の詩人。

92年入学の伊吾田宏正氏の弟さんで、03年3月に新風舎から詩集「どこへ行くの？」を発刊されました。

「おいしいご飯」「まごころ」「雲」など62編が収録されています。

探検探査の会の活動を思う

会長 大野 正夫

毎年、探検・探査の会の通知を受け取ると、しばらく学生時代の思い出にひたる。横浜市大の4年間は、前半は横浜市大の文理学部の存亡に関わる問題があり、焼け跡が残る県庁前をデモ行進した。後半は60年安保紛争に揺れた。そんな激動の時代に探検部が生まれた。私の4年生の時で、1962年であつたと思う。それまでは、探査会学生部と言っていた。探査会は生物学科の福島博先生が4次南極観測隊の夏隊に参加されて、「戦後が終わった」と言われていた時代で、学術調査の幕開けの時であった。探査会は福島先生を中心とした会であり、私が入学した1959年に山岳部と合同で知床列島の夏期末踏の半縦断という探検的色彩の強い事業で、朝日新聞の本多勝一氏が、当時、北海道支社の記者で、我々の探検的調査に加わり、踏査の記録は新聞や週刊誌に掲載された。その時に参加した学生達が、学生だけのクラブ活動を始めた。その頃のメンバーは少人数であったが、元気な連中が多く、商学部の部員は学術調査のまねごとよりも探検的活動を主張して、現在、香川銀行の取締役をしている松本君らが、探検部の旗揚げを行った。探検部になると、急に女子学生が多くなった記憶がある。

我々の時代の合宿は、いつも下山の頃は食べるものがなくなり、帰路、「ラーメンを食べたい。天丼が食いたい。ビールを飲むぞー」と食事の話題が多かった。しかし、かなり、高尚な人生論などをテントのなかで議論し、夜空を眺めて「人工衛星だ！」と騒いだことを思い出す。このような学生時代の探査会、探検部での体験が、私の後の長い人生に影響を与えていると思う。

卒業しても、思い出に浸ることのできる機会を与えてくれる「探検・探査の会」の存在は有り難い。郵送されてくる現役の活動を記す会報は、さわやかな気持ちになり、「もうひと踏ん張りするか！」と、明日を夢みる機会を与えてくれる。「探検・探査の会」は、細々でもよいかから、現役と卒業生をつなぐ糸であり、卒業生の所在を知らせる情報源であってほしい。

北海道「道東」への観察の旅

1965 年卒 宮崎 捷二

小生の所属する群馬高校教育研究会生物部会の 2002 年次総会の資料に、「日本生物教育会第 57 回全国大会北海道大会」の案内があった。現地研修を含めても 8 月 2 日からの 6 日間だ。過去に全国大会参加といえば、岩手・岐阜・群馬・長崎だった。群馬大会については 14 年前の 1988 年、小生が事務局長として担当したものだったのだが。小生にとっては現役最後の年、ましてや北海道。「ラストチャンス、兎に角参加」を軸に夏休みの計画を立てることにした。

探検探査の会 40 周年記念号に小生の「探査会精神を醸成して」の一文がある。

雄大な大雪山のふところで

大雪学術調査 隊の交通費を浮かせる為に小生ともう 1 人、日本郵船に頼み込み貨物船“美幌丸”で竹芝桟橋を発ち、釧路港から北海道に上陸。上川から柱状節理の素晴らしい層雲峠を抜けて、石狩川の支流ヤンベタップ川を遡り、樵や猟師が足を踏みいれるだけの秘境、大雪山系高根ヶ原の西懐にひっそりと点在する扇ヶ原の湖沼群へ。大小 20 個以上の沼の調査や命名に日を費やすまだ新しいヒグマの糞に恐怖を感じラッパや笛を吹き鳴らし、背丈を越える大蘿に驚いたり、息を凝らして警戒心の強いナキウサギの姿を待ったりし。ハイマツ帯を縫う大雪縦走路を忠別岳へ足を延ばす。岩陰に鮮やかな青のミヤマオダマキが揺れ、エゾシオガマなどの高山植物のお花畠が広がっていた。

★いつの日にか再訪してみたい

1962 年（昭和 37 年）当時の貧しい大学生にとっては、調査後ゆっくりと旅する金もなく、駆け足で帰りの道沿いの幾つかの地を覗く程度で、札幌・函館なども素通り同然内地へと戻らざるを得なかった。あの、大雪学術調査から 40 年が経過していた。その後の扇ヶ原をいつの日か訪れてみたいとの思いが、今回の気持ちを駆りたてたのだ。

結論を言ってしまえば、準備不足で扇ヶ原の湖沼群へは入れなかつたが「今はどうなっている？」の強い気持ちが資料を漁らせる。“フルカラー特選ガイド② 大雪山を歩く”（山と渓谷社）を入手。「高原温泉～高原沼巡り、点在する沼をたどる紅葉狩りコース」として案内され、ヒグマ情報センターも設立されていた。「扇ヶ原」という名は見出せなかつたが、高原温泉・高根ガ原・ヤンベタップ・空沼・大学沼・長沼などの懐かしい文字が散らばつていた。いつの日にか再訪してみたいと思う。

★何故「道東」？

2002 年 8 月 2 日（金）羽田から新千歳・札幌へと飛ぶ。翌 3 日、酪農学園大学（江別市）で開催の全国大会（記念講演・研究発表・総会など）に出席し、4 日から 7 日迄の現地研修「道東コース」に加わった。他に「小樽・積丹コース」、「有珠・昭和新山コース」、「大雪山コース」なども有つたが、「知床」が決めてとなつたのだった。知床といえば、小生が入学の 2 年前の 1959 年、横浜市大の創立 2 年目の探査会と山岳部の合同隊が、夏の知床半島縦走を初めて成功させたのだ。当時 1 年生だった大野正夫氏（探査の会会長）も加わり、朝日新聞北海道記者だった本多勝一氏も随行したと聞いていた（「北海道探査記」・本多勝一・集英社文庫・28 頁）。

★闇に光る二つの眼カミイツボシ

8月4日（日）先ずは江別市・野幌森林公園〔開拓の進んだ札幌周辺にあって、原始性に富んだ森林が奇跡的に残されている〕を観察後、国道274号を東進し、限界になるはずのエゾマツの上部にダケカンバという植生の日勝峠で日高越え、行く手の十勝平野はガスの下。まったくの無駄遣い道東自動車道を通り、ビート・ダイズ・ジャガイモ・トウキビなどの広がりを裂く長い直線道路、足寄を経て阿寒湖畔へ。

8月5日（月）阿寒湖畔で、アイヌ語で「煮え立つ」という意味の「ボッケ」を観察、泥濘からH₂Sを含んだ火山性ガスがプクポコプクと噴き出している。船の動きに合わせてうつろふ雄阿寒・雌阿寒岳、湖北に浮かぶチュウルイ島でマリモの生態観察。♪晴れれば浮かぶ水の上……などと唄われているが、マリモは浮かびはしない。摩周湖は期待通り（？）濃い霧に抱かれて静かに眠っていた。近くの硫黄山にて硫化荒原の植生観察、ここは40年前に立ち寄った記憶がある。先行していた今回の研修担当者が、過去に食糧用として米国から移入したというウチダザリガニを採取して来て駐車場で披露してくれた。先の阿寒湖畔でも2mを超える丈のラワン藻を見せてくれた。道は下るが北上し右手に斜里岳を望みつつ走る。又々40年前の網走原生花園を思い出しつつ、眼前に同じくオホーツクの海が広がる以久科原生花園にて海浜植生の観察。ひたと寄せる浜で小っちゃなタコノマクラを拾う。宿りの宇登呂での夜は、4基の探照灯で両側車窓の闇の中に2つずつ光る眼を捜す。約1時間、子ギツネ1頭、エゾジカ30頭以上を確認。北海道ならではの観察会だろう。

★オホーツクそして知床

8月6日（火）宇登呂の磯の生物観察後、8:20 知床観光船は離岸する。ウミネコが何十羽と追って来る。切り立つ岩壁が続き、時に大きなそして小さな洞穴・奇岩が右へとゆっくり流れる。岩壁にところどころ白色の模様がくっ付いている。ウミウの糞尿でコロニーが有ることだ。岩尾別川にはサケの孵化場が設けられているという。船が意識的に岸から遠ざかると半島上部に硫黄山から羅臼岳へと嶺々が雄大に連なり広がる。硫黄山付近から船は引き返す。谷から落ちる滝水が硫黄分を多く含むので、海との接点が乳白色を呈している。眼を転じると今日のオホーツクの水平線は、空の青をくっきりと分けている。9:50 帰り着いた港の強い日差しの中、モイワシャジンが眩しく揺れる。知床横断道路の途中、ポンホロ沼にて湿地の植生観察、カイガラミジンコの殻が魚の鱗のように散らばり、-20℃以下で樹皮が縦に裂ける凍裂も観察。1661mの羅臼岳が迫る知床峠、根室海峡の向こうに国後島がうっすらと横たわっている。羅臼ビィターセンター、熊越の滝周辺の植生、そして羅臼マッカウス洞窟にてヒカリゴケの観察。羅臼のお宿“まるみ”はカニ・イクラ丼で歓待してくれた。

8月7日（水）左手に国後島を従え南下する。かえり見すれば知床が遠ざかる。ポー川史跡自然公園は標津湿原・国指定標津遺跡群・民俗資料館を見せてくれた。標津サーモンパーク・サーモン科学館にてサケ類の生態観察、広大な釧路湿原中のコッタロ湿原・そして温根内湿原にて植生観察。道東の現地研修は終わった。

小生は8日（木）以降札幌から室蘭・函館本線で八雲町に立ち寄り、大学時代の同輩38年振りの小林保勝氏と旧交を温め、函館→青森への片道しか乗ってない青函連絡船の歴史を、函館の港に係留されている摩周丸に訪ねた。

「エゾシカを追う」

伊吾田宏正（1992年入学）

（以下の文章は「East Side」という雑誌に載せてもらった文章です。エゾシカの追跡調査のことを一般向けに書いたもので、ぼくが今取り組んでいることがだいたいお分かりいただけだと思います。なお「East Side」は2000年に創刊された季刊雑誌で、ステレオタイプでない北海道のカントリースタイルの魅力を地元から発信しているなかなか見ごたえのある雑誌です。興味にあるかたはどうぞ。）

おかしい。シカたちが移動しない————。

ぼくはエゾシカの季節移動を待っていた。毎日のようにシカの越冬地に通い、電波発信器をつけたシカの電波をチェックしていた。この時期シカは10～20頭、ときには50頭以上もの大きな群をつくり、雪の下の食べ物を食べている。越冬地の開けた谷間は見渡すかぎりシカだけで、車で10kmほど走っただけで1000頭近くを数えた。一度にこれだけの数のシカを簡単に見ることができる場所は、日本でも他にあまりないだろう。ピッ、ピッ、ピッ。何頭かの首についた発信器からの信号が受信機ごしに聞こえてくる。確かにまだ、ここにいる。長かった冬がやっと緩み、雪融けは急速に進んでいた。1999年4月のことである。

シカは季節移動をする。彼らは、出産育児の場である夏の生息地とよばれる地域から、冬になると越冬地とよばれる雪の少ない地域へと移動する。彼らは冬は主にササを食べるが、雪が深いと掘って食べるのが大変なのだ。また、フカフカの雪の上では、彼らの細い足では重い体を支えられず、ずぶずぶ沈んでしまう。そのために彼らは雪の少ない地域を求めて移動するのだろう。そのスケールは広大で、移動距離は数十キロにもおよぶ。発信器がついたある個体は根室海峡に面した別海町の西別原野から、なんと百キロ離れた白糠の越冬地まで移動していた。よくぞ、そんな距離をはるばると移動するものである。そして驚くべきことに、それぞれの個体は毎年毎年、ほぼ同じ場所に帰ってくるの

だ。それもピンポイントに、この沢、この斜面、というレベルである。いくつもの尾根を越え、奥深い森を抜けなければならないのに、彼らは進むべき方向をどうやって知るのだろうか。地図もカーナビも持たないのに……

今から3年前の1997年、シカの季節移動を探る追跡調査がはじまった。そのためにシカを捕獲して発信器をつける。北海道東部にはいたるところにシカがいて、その美しい姿を見ることはたやすい。しかし見るだけでなく、実際に野生のシカを生け捕りするとなると大変である。まずは、シカが一ヵ所に大量にいる場所探し。エゾシカの王国である北海道東部には、彼らの大規模な越冬地がいくつか知られている。阿寒湖畔や白糠、厚岸、浜中などに大きな越冬地があるという。ぼくたちの研究グループが選んだのは白糠町の庶路川にある越冬地である。ここは特に巨大な越冬地であり、昔から地元のハンターの間ではよく知られていた。次に、捕まえやすい時期も考えなければならない。北海道では冬になるとほとんどの草木は葉を落としてしまう。彼らは夏の間に蓄えた脂肪と、冬でも枯れないササで厳しい冬を乗り切るのだ。雪に閉ざされた長い冬が終わろうとする頃、彼らの体力も限界に近づく。そして食べるのに夢中になり、人間に対する警戒心も少しだが薄れてくる。そんな時期にお尻の肉の厚そうな安全な所を麻醉銃で狙い撃ちして眠らせるのだ。そしてシカが麻酔から覚めたときには、不思議なネックレス（発信器）とイヤリング（番号が記してあるタグ）がついていることになる。シカには少し可哀想なことだが…

越冬地にむれるシカの大群を初めて目の当たりにしたときの感動は、今でも忘れられない。彼らが数十頭もの大きな群をつくっているときは、常に群のなかの誰かが何かを頻張った口をモグモグさせながら、危険がないかどうか首を上げて辺りを見回す。そこでヒトなどが近づくと、「ピヤッ！」という警戒音を発して群全体が緊張する。そして一頭が逃げ始めると、それを追って皆が同じ方向に塊となって走っていく。シカの冬毛は明るいグレーを基調としており、お尻の毛だけ真っ白である。警戒するとそのお尻の毛がフワッと白い大きな花が咲いたようになる。そのグレーと白が何十頭も走っていく様はまるで海の中のイワシの大群を連想させる。一頭一頭の体全体の筋肉が活発に踊っているのが遠目にもはつきりと見える。迫力である。この美しさには、いつもながらウットリと見とれてしまうのである。

そのような大群も春になると、それぞれの夏の生息地を目指して移動してい

き、道東じゅうに散らばっていく。これまでの調査から、白糠で越冬するシカたちが、東は別海、中標津など、北は津別、陸別、訓子府などへ移動していくことがわかつってきた。それを追跡していくのは、本当に大変である。雪が融けると彼らはほとんど一斉に越冬地をあとにする。調査を始めた当初は、シカたちがどこに行くのか全くわからない。発信器の電波はせいぜい数キロしか飛ばない。毎日毎日車を走らせ、受信機のボリュームを全開にしてかすかな信号も聞き逃さないように探しまわったものである。ときには朝から晩まで4百キロも走って1頭も見つからなかつた日もあった。そんな日の晩には布団のなかで、ピッ、ピッ、ピッという発信音の幻聴が聞こえてしまうのだ。そんな苦労のすえ、最終的に彼ら追跡個体の夏の生息地を突きとめたときの喜びは、何物にもかえがたい。こんな長距離を移動してきたのかい、この森で子を産み育てるのかい、と姿は見えなくてもシカに声をかけたくなる。

1999年4月、白糠の越冬地でぼくはまだシカの移動を待っていた。去年は3月の下旬にはほとんどのシカが移動していた。しかし、この年は4月中旬になっても越冬地では相変わらずシカの大群がササを食べている。今年は移動しないのか?そんな不安もよぎる。確かに去年より雪融けは遅かった。しかしもう地表の雪はほとんど消えようとしている。——そして、4月17日。動いた。いつものように車で越冬地に来ると、辺りの空気がそれまでとは明らかに違っていた。シカの数が極端に減っている。車をさらに上流に走らせると、いた。20~30頭のシカの群が上流に向かって、しかも1列になってぞろぞろと移動していく。決してはやい速度ではない。あくまでゆっくりと歩いていく。食べ物を探してほっつき歩くのではなく、明らかにどこか目的地をめざしている。こちらに気がつくと群は逃げて散ってしまうが、こちらが隠れて少し待つと、再び隊列を組んで上流をめざす。ぼくは自然の意志のようなものを感じていた。ひとつの群が通りすぎると、また別の群が通っていく。それも1本の道を。それは何百頭ものシカが通ったのだろう、深く土がえぐれていた。足跡は全て同じ方向を向いている。ぼくの心臓は強く高鳴っていた。太古の昔から繰り返されてきたであろう野生の営みを、ぼくの魂は確かに感じていた。

星野とゴーンでいけるぞ▽字回復

「ガキのこどもから阪神ファンだつた」

し文句だ。

阪神は 日本産にならぬ

(56)が監督就任の会見で語った言葉だ。

な決定は私がする
ひさし 社員だった中村史郎氏
(52) = 現日産デサイン本部長 = を
スカウトしたときの「一人」社長の
セリフだ。

性とは明らかに違う。チーフをリストラして首位を走る星野阪神、「一ノ瀬社長の田舎に重なるひびがこんなにありた。

だらうが。そんな余計な心配をしたくなるほど、各ボジションが充実している。

AERA（03年6月9日号）
で、佐藤修史さん（87年入学）
の特集記事が掲載されています。
阪神タイガースを日産の復活
になぞらえて、日本経済と組織
論まで言及した文章は、とても
面白く読ませてもらいました。
その後、彼はTVにも出演する
ほどの売れっ子記者になって
います。

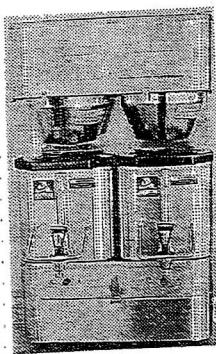
だらうが。そんな余計な心配をしたくなるほど、各ボジションが充実している。

腕時計と之功労者

店をつくる

大工場に作業ホツト。日本が断続一工程スルを盛り込むと作る。ジ

業務機器フラッシュ



タツチパネルでコトヒト

タッチペネル方式の「
リップドコーラーマシン」
「PA-400」。
米国ケライン・マスター
搭載。

ネルを搭載したのは初めてという。

シヤトル一個の容量は
一ヒーラー以下のシャトル
に用いられる容器にたま
能もやった。押出した
。

外形寸法
× 奥行さ六
十九
チ。
一度に二

ハチメツ×高ヤハ
ハチヤナギ十七
ハチヤナギは福

円。パ^ア本體

価格は六十四円
スクアイスは提携
から供給する。

最大五・七〔ル〕下部に保
温器を搭載し、最大一時
間は飲み口の水を保つ。

古事記

行方不明の事件

阪神タイガースが快進撃を続けて、佐藤さんが取材を行って いる5月頃に、私（川尻）は自分が扱う商品をタイガースグ ッズにしたくて、阪神球団を訪ねていました。

医療現場で使われている皮膚保護クリームを、医療以外の市場にも出したく、グッズを思いついたのです。

そして、10月に「クリアG歯神タイガース」を発売いたしました。希望者には探検部価格でお安く販売いたします！

手荒れ保護 クリーム



見えない保護膜が手肌を覆い、手荒れや汚れ、においの付着を防ぐ皮膚保護クリーム「クリアG阪神タイガース」。

的刺激から皮膚を守る。
皮膚呼吸や発汗作用は妨
げだ。

1968年1月1日

◇ 会員近況報告

昨年の総会(2002年11月9日)の出欠ハガキで寄せられた会員の皆さんのお近況です。
(順不同)

河合武臣さん

- ・自由生活者となって2年目です。卓球サークルに入り練習、試合とがんばっています。8月4日～8月10日に初めてアメリカ国立公園に行き、地層、化石を見てきました。自然のスケールが大きく、地球の歴史とダイナミックな動きを感じました。また、全てカジノの町(大ホテル街)のラスベガスに宿泊し、エネルギーの巨大消費に驚かされました。

宮崎捷二さん

- ・教員も週休2日になったので、総会には出やすくなつたが、11月9日は最初の教え子達が(小生の)「還暦の集い」ということで、横浜には出掛けられません。今夏は探査会で'62年にやつた「大雪学術調査」以来40年ぶりで札幌を訪れました。日本生物教育会の全国大会で、道東方面の研修で羅臼まで足をのばしました。次は調査地の扇ガ原に足をふみ入れたいと思っています。

高松康夫さん

- ・ここ2～3年、丹沢より高い山行がありません。今年は甲斐駒を黒戸尾根から登る予定でしたが、日程その他で断念。
海外では西チベット(カイラス山を中心に)をターゲットにしているのですが、いつ実現するか。定年(2003年3月)後、もし2～3週間日程がとれれば実現したいと思っています。
探査会については、少なくとも会員の情況の交流の場としてのゆるやかな組織としてもいいのではないかと思います。

水尾寛己さん

- ・今年は8月に木曽駒ヶ岳と富士山に登りました。2年前に富士山山頂を目指したのですが、8合目で高山病となり、今年は木曽駒ヶ岳で高度順化をし、翌週富士山頂、お鉢めぐり、ご来光、と全て達成しました。
※探検探査の会、どうなったのかと心配していました。

小森享二さん

- ・今年の3月末で勤続30年になりました。定年まで余すところあと7年です。そろそろ将来のこと真剣に考えなければと思っています。まだ具体的な計画はありませんが、将来に備えて、①経済的基盤 ②健康の維持継続 ③人間関係の充実 ④自己の能力向上を意識して生活していくと思っています。

大野正夫さん

- ・総会にでれず失礼します。1. 5年後には小田原に帰り、自由の身になりますので、探検探査の会の盛り上げにも努力したいと思います。

紙村徹さん

- ・(出欠ハガキはいただきましたが、近況報告のコメントはありませんでした。)

川尻哲夫さん

- ・20数年間のSRLグループ（臨床検査会社）を昨年（2001年）の12月に退社して、今年（2002年）の1月から（株）エヌ・エム・ジーという会社に転職しました。皮膚保護クリーム「クリアG」という商品の輸入販売事業に賭けています。

小嶋広海さん

- ・(出欠ハガキはいただきましたが、近況報告のコメントはありませんでした。)

桑村政宏さん

- ・子供の成長により住まいが手狭になり引っ越しを繰り返している。（子供が3人で2回の転居。実家→マンション→借家）
毎度欠席で申し訳ありませんが、四国の田舎においてますと時間的にも経済的にも・
・・・・。

吉野孝子さん

- ・会費について、気についていた時期はあったのに申し訳ありません。3年分はちょっと多くなってしまいました。本日、郵便局へ気を決して。職場の周りには郵便局も銀行もなく・・・。
昨春より水質管理係（職場）の定数が5人→4人へ減らされて、休みも取りにくくなっています。私も（定年まで）残り1年半を切りました。

師井佳子さん

- ・パソコンは持っているものの、インターネットやメールもつないでいないし、携帯電話も使っていない、IT革命の波に取り残されたような我が家。
でも、そういう物って、そんなに便利？ なんでしょうねえ・・・。
(会費未納でごめんなさい。今回はなんだか気がつかなかったみたいです。日々、ふりこみます。)

関口由佳里さん

- ・連絡を取らずにいて申し訳ありませんでした。
私は地元の役場で働いて今年度2年目になります。思ったよりずっと忙しいですが、なんとか元気でいます。11/9も仕事で出席できませんが、よろしくお願いします。）

佐藤修史さん

- ・9月中旬に長髪を丸刈りにしました。
- 2週に1度は釣りに出かけ、国土の荒廃ぶりに絶望的な思いになっています。

鈴木広視さん

- ・最近は海（ボディーボード）を楽しみしております。

児玉亮さん

- ・総会は仕事で行けません。いつもすみません。
昨年（2001年）11月に第2子が生まれました。家族も増え公舎も手狭になってしまったため、なんと思い切って木更津に家を建ててしまいました！！来年（2003年）3月に完成予定です。お近くにお越しの際には是非どうぞ。ただ、よいことばかりではありません。この7月には大腸腹膜炎をわずらい手術と入院と1ヶ月間の休職。いやーさすがに年を感じます。

小森啓志さん

- ・今年の奄美大島は元ちとせブームでしたが、もしかして市大も平井堅ブームだったりするのですか？
2年目になると、現在のスバラシイ環境も少しずつあたりまえになってきますが、海の色はいつみてもハッとします。そんな海をシーカヤックで行くと、だれもいないビーチや無人島があるので！

荻野諭さん

- ・大変ご無沙汰しております。出席できず申し訳ございません。
私は、4月に長野の山奥から福岡に転勤して、半年が経ち、やっとこちらの言葉にも少し慣れて来たところです。
九州に来て、日が長いというのが一番の感想で、夏とかはよく時間を間違えていました。屋久島や韓国に、こっちに来て行ったので、これからは対馬や五島列島などに行けたらいいなと思っています。

佐々木仁さん

- ・新宿の都庁舎に来て5年目にして初めて繁忙職場を外れたので、今年は久しぶりに山行を再開しました。8月は平ヶ岳、9月は北アルプス（蝶ヶ岳～常念岳）、10月は南アルプス（北岳～間ノ岳～農鳥岳）、11月は奥秩父（瑞牆山、金峰山）。久々の山は何とも言えず感慨深くとても良かったのですが、どれも単独行だったので少し寂しくもありました。皆さん、一緒に行きましょう。場所はどこでも。

佐藤栄宏さん

- ・今年の8月にとても久しぶりに大学を訪れた。部室をのぞいて見たけど、あまりかわらないようす。卒業してから時間がたつたと分かるのは、サークル棟あたりを歩いている学生のはつらつ（？）とした顔を見たときでした。
- 最近は宮本常一の本を好んで読んでいます。

高梨洋之さん

- ・返事が遅れて申し訳ありません。探探会の総会にも出席できず残念でした。
- 現在は市ヶ谷にある海上幕僚監部の經理課で海自の予算編成の業務に携わっていますが、12月に入って本格的に多忙を極めております。なかなか総会にも出席できませんが、機会がありましたら出席したいと考えております。

小原昌史さん

- ・2年前より大阪にて勤務しております。近くへお越しの際には、ぜひご一報ください。

星川亮さん

- ・総会には現時点では行けないと思うのですが、もしかしたら参加させて頂くかもしれません。その時はよろしくお願いします。返信が遅くなって申し訳ありません。

戸田亮介さん

- ・名古屋の山岳会に入会し、夏は沢登り、冬は雪山を楽しんでいます。
- 今年はアイスクライミングに注力しようと考えています。

松林孝憲さん

- ・仕事の為、総会に出席出来ず残念です。
- 2年前に社会人山岳会に入り、飽きもせず山登り、岩登りに励んでおります。そのうち機会があれば、また一緒にどこか行きましょう。

高井主税さん

- ・来年（2003年）1月より上海勤務になりました。期間は3年間です。急なことで自分自身驚いています。

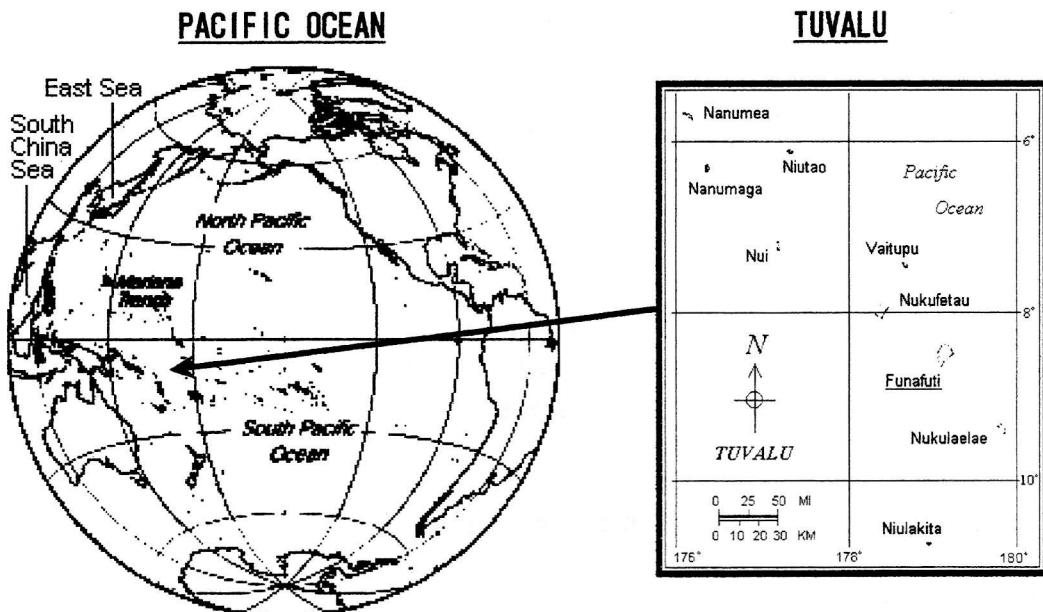
平塚洋介さん

- ・図書館設備の仕事に関わっていますが、性質上「公共事業」がらみが多いので、現在の日本経済においては肩身が狭く、フトコロは淋しいです。
- 禁煙生活が1ヶ月になりました。僕の近くでタバコを吸わないでください。

三浦研さん

- ・今年は保育園の役員をやらされており、いそがしく過ごしております。

～現役探検部ツバル遠征計画の紹介～



九つの島からなるツバル Tuvalu の首都フナフチ Funafuti は南緯 08 度、東経 178 度に位置する。日本からのアクセス方法はフィジー経由が一般的で、成田～フィジーが直行便で約 8 時間、フィジー～ツバルが約 2 時間 30 分(30 人乗りプロペラ機)で結ばれている。

基本データ (2001 年)

首都 Funafuti (フナフチ環礁ファンガファレ島)

面積 25.9km²

行政 議会制民主主義を持つ立憲君主制度

人口 10991 人

通貨 オーストラリアドル A\$

言語 英語/ツバル語

宗教 プロテstant・ツバル教会 85%

人種 ポリネシア系 91%

産業 輸出産業は皆無。主な収入源は、他国の協力で設立した「ツバル信託基金」の運用益。外貨獲得手段として海外に出稼ぎに出てる人からの仕送りや、切手販売がある。自給自足が生活の基盤となっている。

歴史

1568 年 スペイン人メンダナ、エリス諸島のヌイ Nui 島発見

1892 年 ギルバート・エリス諸島として英國の保護領となる

1915 年 ギルバート・エリス諸島として英國の植民地となる

1978 年 10 月 1 日 独立

2000 年 9 月 国連加盟

※ギルバート諸島はツバル(エリス諸島)の北にあり、現在はキリバス共和国の一部となっている

【ツバルに遠征する理由】

昨年(2002年)末、地球温暖化による海面上昇の被害を受けている「ツバル」という国があるということをどこからともなく聞きつけ、「それなら探検部の活動を通して環境問題解決になんらかのアプローチをかけてみてはどうか」という何気ない思いつきがきっかけで今回のツバル計画が始まりました。

ツバルは小さい国ながら、ごみ問題や海面上昇問題、人口増加など早急な解決が困難な問題を多く抱える一方で、穏やかに輝くラグーンや青々と茂るヤシの木に囲まれて、島民たちはみな大らかに暮らしています。今夏の視察を終えて、「ツバルは海面上昇やごみ問題だけで有名になるにはあまりにもったいない。その文化やそこで暮らす人々の生活をもっと知りたい。」という想いが強くなりました。その想いを反映させたく、来年8月に行う予定の本計画は、

1. ツバルの文化や人々の生活を、現地滞在を通して調べる。

2. 調べてきたことをメディアを通して発信し、読者に環境問題を身近に感じてもらう。

という大きな2部構成にしていこうと思っています。具体的には、滞在中はツバルの離島にホームステイをし、人々の生活の中に完全に紛れ込みながら、メンバーひとりひとりが興味を持ったことを調査します(項目については後述)。そして日本に帰ってきてからそれをまとめ、描き出されたツバルの日常を新聞やインターネットなどのメディアを駆使しできるだけ多くの人に伝え、ツバルへの新しい認識を持ってもらつたうえで、環境問題を他人事ではない問題として捉えてもらうことを目的としています。環境問題に関する科学的な調査結果よりも、実際にそれらの問題に直面している人々が守ってきた文化や何気ない日常生活の様子を見る方が、特別な知識がない人でも直感的にツバルという国に面白さを感じられるだろうし、環境問題に特に关心がない人でも親近感を持ってツバルの人々の身に起こっている現実を捉えられるだろうと思うのです。環境問題は学者や知識人だけのものではないということを、言葉だけでなく実感を込めて伝えたいのです。

自分達の興味を満たすだけの調査に終わらず、今まであまり見られなかつた方法でツバルの環境問題にアプローチし、その調査結果をわかりやすく印象的なカタチで部外に発表していくこうという今回のツバル計画が、探検部における新しいタイプの活動として後代に影響を残すことを期待しながら、計画を進めていこうと思っています。



【視察隊員紹介】

綱島 祥三 国際文化学部人間科学科3年(写真右)

海がある暮らしや南太平洋の島々に対して持ち続けていた興味を形にしようと思ったことから、ツバルを舞台にした活動を行っていくことを探検部員に呼掛けた。心理学専攻(現在休学中)。00年度入学、22歳。

岡原 桑子 医学部進学過程2年(写真左)

辺境での医療活動に従事することを目標に学業に専念している。今回の視察ではアメリカ留学経験で培った英語力を活かし、政府各機関の担当者との対談をスムーズにこなした。01年度入学、21歳。

【視察報告】～今年の夏、実際にツバルを見てきました～

目的その1. 社会・文化調査を行う場合の必要事項調査

- ・フィジー共和国での移動方法 / 宿泊地 / 物価 / 食糧事情
- ・計画があることをツバルの人に知ってもらう。
- ・ホームステイを受け入れてくれる方を探す。
- ・計画推進の前提となる項目の調査(物価 / 医療機関の場所と程度 / 通信手段の確認)。

目的その2. 来年参加する各隊員の興味あるところを調べてくる

- ・ゴミ問題や塩害など、ツバルで深刻になっている環境問題について
- ・教育制度について / 民族楽器について / 切手の価値について

目的その3. ツバル計画の発端であるシーカヤックによる海峡横断構想の実現可能性の検証

- ・自然条件 / 日本～ツバル間のカヤック輸送方法 / 海洋危険生物 / 伴走船について

成果とポイント

1. ツバル外務省秘書官・パニニラウペパ Paani Laupepa 氏と協力体制を作れたこと

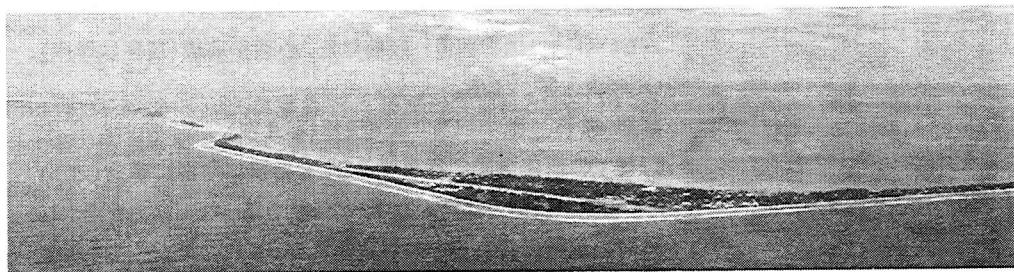
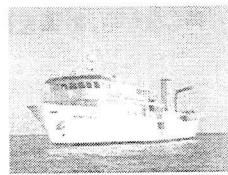
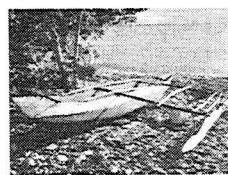
ホームステイ先の紹介をはじめこれから計画推進に全面的に協力してくださる。外務省秘書官としてではなく、国中の人脈を持つ一個人としての協力であると思われる。

2. 離島の教会の司祭と協力的な関係が作れたこと

上陸しようとしている島に親類も知人もいないひとは、上陸する際にその島の教会の司祭に挨拶するのが慣習となっている。今回の視察では又イ島とヌクフェタウ島でそれぞれの司祭に迎えていただいた上に、来年の計画へ向けて協力的な関係を築くことができた。

3. 物価 / 医療機関 / 食糧事情 / 通信手段 の各項目について詳しい事情が知れたこと

4. その他、調査項目に加え、多くの映像資料を得られたこと



【行動概要と会計報告】

日付	国	行動
8/6(水)	日本	成田出発。格安の王様・大韓航空でソウルを経由する。
7(木)	フィジー	フィジー共和国・ナンディ着
8(金)		物価調査、輸送会社訪問
9(土)		輸送会社訪問
10(日)		休日
11(月)	フィジー/ツバル	ツバル入国。外務省秘書官・パニ氏と対談。
12(火)		価格調査
13(水)		調査項目リストをパニ氏に渡す。 伝統工芸のワークショップを見学 / 切手屋の場所を確認
14(木)		公衆電話の料金チェック / 切手屋、図書館訪問 別の宿の程度と料金をチェック
15(金)		気象庁、Land Department、Waste Management訪問
16(土)		フナフチ環礁内、自然保護区と船員学校を見学
17(日)		日曜礼拝。病院を見学
18(月)		環境省、教育省、気象庁訪問。
19(火)		私立中学高校見学。水産庁訪問
20(水)		離島への船旅はじまる。バイツブ島見学。
21(木)		ヌイ島見学、ヌクフェタウ島見学
22(金)		フナフチ帰港。長時間の船旅のおかげで陸酔いに苦しむ。
23(土)		フォンガファレ島内の地理の把握
24(日)		日曜礼拝。パニ家訪問。
25(月)	ツバル/フィジー	朝、ツバル出国。午後はフィジー・スバで過ごす。
26(火)		輸送会社を再度訪問。
27(水)		ナンディタウン滞在。バス時刻表入手。
28(木)	フィジー/日本	朝、フィジー出国。ソウルを経由し、夜に成田着。

交通費 477,612 円

【主要項目】

成田～ナンディ往復(大韓航空・ソウル経由) 226,280 円

スバ～フナフチ往復(AIR FIJI) 170,574 円

ツバル離島間の定期船 56,202 円

フナフチ環礁内見学ボートチャーター代 10,440 円

(その他、バス、タクシーなど)

食費 23,449 円

宿泊費 76,358 円

スバ→ダブル 1 泊 F\$33×6 泊

ナンディ→ツイン1泊 F\$35×1 泊

フナフチ→ダブル 1 泊 A\$50×12 泊

+ 離島訪問中の取り置き代 A\$5×2 日 × 2 名 + 政府税 + 電気代

通信費 4,834 円

インターネット / 電話

その他 20,655 円

エアフィジー荷物重量超過料金 / ツバル出国税 / ツバル地図

合計 602,908 円 (2名)

※2003年8月中の標準レートで換算 F\$1=69 円、A\$1=87 円

【本計画で調査するテーマ】

環境問題

今回の調査の大きな柱となる各隊員共通のテーマである。温暖化による海面上昇問題のみならず、ゴミ処理や汚水処理にまつわる問題、人口増加など、ソトとの接触が頻繁になるにつれてもたらされた新たな問題がいま、ツバルでは深刻になっている。ネコの額ほどの狭い土地、限られた自然の浄化システムの中で増加を続ける人口と外国から入ってくる石油製品のおかげで、フナフチはまさにいま「限界」を迎えるとしている。来夏の調査では、フナフチまたは離島に起きていく「限界」の現状やそれに関する住民の意識がどのようなものであるかを調べるとともに、先進国に暮らす者としてわれわれはどのように関わっていくのがよいのかを考えていきたい。



伝統医療

ツバルの島々に古くから伝わる伝統医療について調べてみる。離島には、どんな病気でも治せてしまう伝統医が存在するという。ちょっとした風邪から骨折まで治してしまうこの者の存在に着目し、調査する。伝統医療技術を聞き出し、それを外国の製薬会社に漏えいして報酬を得る人間もたまにいることを受け、伝統医が警戒心を持っていることもあるというので、外部の人間であるわれわれが調査して得た情報を悪用しないと信じてもらうことが重要だろう。



教育

環境問題に関する教育を中心に、教育制度全般について調べる。バイツプ島にはツバル唯一の公立中学・高校があり、ツバル全土から思春期の男女が一堂に集まって寮生活を営んでいる。生徒と一緒に寮生活を送りながら学校教育の現状を調査するのと共に、環境問題に関する教育が若者達にどの程度影響を与えていたかといった環境問題に対する意識調査をはじめ、ツバルという独特の空間で生きる若者達の様子を描いていきたい。



食糧確保～漁撈と採集～

ポリネシアにおいてカツオ漁や外洋での漁は、男性の通過儀礼としての役割や権力者による社会統制の様子が強く反映される場面であり、カヌーの操船は男性としての誇りを示しているということから、漁撈という行為全体には「食糧の確保」以上の社会的な意味があるといえる。ポリネシア全般にいえることがツバルでもいえるのか。また特異性があるとすればなぜその特異性が生まれたのか。環境問題に関する人々の意識が生まれる前提となった社会基盤を描くためには漁撈を語らないわけにはいかず、また、脈々と受け継がれてきた伝統文化を記録として残すという資料的価値に迫りたいということもあり、来夏は離島の漁師の家にお世話になりながら実際の漁に参加させてもらえたと思う。そして、海の幸・山(?)の幸が一堂に会する食卓の様子も描きたい。



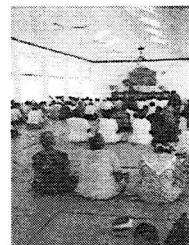
伝統芸能

他国に見られるような絵画・彫刻などの「有形」芸術が見受けられないのがツバルの特徴で、見られる芸能といえば歌とダンスである。歌とひとくくりにいっても、いつも夕方になるとどこからともなく聴こえてくるおばちゃんたちの歌声や、ワークショップの最終夜に大合唱された歌、教会での賛美歌など、歌が歌われる場面は様々だ。歌に合わせて楽器も演奏されるが、一斗缶のようなドラムや木をくりぬいて作ったウッドペルといった打楽器が主流で、それ以外ではココナツで作ったウクレレがある程度らしい。しかし、芸能のジャンルが少ないということは逆に、ダンスと歌にツバル人の芸術への感性が集約されているとも言えるのではないだろうか。歌とダンスにクロースアップすることを出発点に、ツバルの芸術を描いていきたい。



宗教観について

国民のほとんどがプロテスタントだが、イギリス人によってキリスト教が持ち込まれるずっと前から脈々と受け継がれてきた「土着信仰」も、ツバル文化の基幹として今も生き続いているはずだ。神様や自然に対する思い、態度がどのようなかたちで生活にあらわれているのかなど、ツバルを支える宗教観について迫っていきたい。



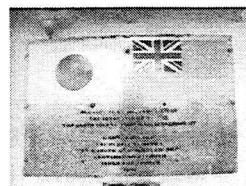
感覚の違い

自分でも気付かぬうちに身についている「感覚」というものは、自分が暮らす文化によって育まれ、また、文化に育まれた感覚を共有する人々によって新たな文化が形づくられる。来夏の滞在では特に日本のドラマや映画、昔話などをツバル人に見聞きしてもらい、どんな感想を持ったかをお互い話し合うというやり方でツバルの人々の感性を描き出したい。昔話をいくつか教えてもらい、日本に伝えられたら面白いのではと思う。



ツバルと日本の関わり合い

ツバルという国があることを知っている日本人に会ったことはほとんどないが、日本のことを知っているツバル人には数多く出会った。船乗り(seaman)として貨物船に搭乗し太平洋各地を回っていたときに佐世保や下関、神戸などといった港湾都市に何度も寄港したという中年男性や、福岡にホームステイしたことがあるという高校生にも会ったし、沖縄に行ったことがあるひともいた。また、バイツブ島の中学・高校や、フナフチの大病院を建てた「ダイニッポン」という会社に一時的に雇用されていたツバル人も多くいたらしく、2週間の労働で A\$400 もらったと自慢げに語る若者もいた。ODA以外にも民間レベルで両国は頻繁に接触しているようだ。また約 60 年前には、一時的であるとはいえたエリス諸島が日本の領土だった時期がある。サイパンや硫黄島のように、その歴史が後世に伝えられている島だけが悲しみの舞台ではなかったということを、ヌイ島の日本兵慰靈碑が今も静かに語っている。現代の政府レベル・民間レベルの接触の様子だけでなく、太平洋戦争中の日本軍による占領という島民にとっての一大事を、現地調査や文献収集を行い、具体的に詳しく掘り下げて描いていきたい。



2002年10月

探検探査の会アンケート

探検探査の会も創立11年を迎え、設立時と状況も変化し、会自体のあり方も転換期を迎えていると思われます。具体的には、設立時に比べ現役探検部員との接点が減り、探探会設立当初に活動目的の柱の一つであった現役への支援が実質的には行われなくなってきたこと、探探会自体の問題としては、会員の反応が少ない（総会への出席者が少ない、会費の滞納者が多い、会務を行う事務方が何年も変わっていない等のことなどがあげられます。

そこで、今後の会の運営の参考とするため、また、会員の皆さんに探探会のことを少しでも考えていただく機会とするため、このたびアンケートを実施することとしました。趣旨を理解され、一人でも多くの方にご回答いただけますようお願い申し上げます。なお、返信用封筒は同封しませんので、郵送、電子メール、FAXのいずれかの方法で、下記送付先までお送りください。

アンケートの結果は、11月9日の総会時に集計して公表したいと思います。また、次号「探検・探査」にも掲載の予定です。

総会に間に合わせる都合上、できるだけ10月31日(木)までに届くようご返答ください。

探検探査の会 会計 佐々木 仁

アンケート送付先（FAXの場合は、2つに切ってA4（2枚）にしてお送りください）

(郵送の場合) 〒157-0065 東京都世田谷区上祖師谷5-22-2-201 佐々木仁宛て

(電子メールの場合) j-sas@js4.so-net.ne.jp (佐々木仁宛て)

(FAXの場合) 045-332-3533 (高松康夫宛て) …番号はお間違えのないよう。

1. 氏名

(公表時の匿名希望の有無 : 匿名希望有 その必要はなし)

入学年度

学部

2. 会費について

1) 会費を滞納している人は、会費滞納の理由をお答えください。(複数回答可)

- ・お金がない
 - ・自分の会費の納入状況がわからない
 - ・会員になったつもりがない
 - ・その他（具体的に）：
 - ・払込先がわからない
 - ・払う気はあるが、ついいつ払うのを忘れてしまう
 - ・活動内容から見て払う気になれない

2) 会費を滞納している会員の扱いについて、どのように考えますか。

- ・長期滞納者については、示しがつかないので退会扱いにすべきだ

(何年くらいの滞納で? 年)

- ・OBの集まりとして組織しておくためにも、会費の滞納を理由に退会にすべきではない。
- ・その他（具体的に）：

3) 会費について意見がありましたら自由に書いてください。

3. 会員継続の意思の有無

あなたが今後も探探会の会員を続けていくかどうかについて、率直な意見をお聞かせください。

- ・今後も探探会の会員を続けていく意思がある。
- ・探探会があるのなら、入っていてもかまわない。
- ・探探会の活動が今のままでは入っていてあまり魅力を感じないので、退会したい。
- ・探探会の活動内容如何に関わりなく、退会したい。
- ・その他（具体的に）：

注) 現在の会員は、会の設立時点ですでに卒業していた人もしくは当時の現役部員については、会の設立に際して案内を送り、本人の意思を確認した上で会員として登録しています。また、その後の卒業生については、口頭で意思を確認の上で、会員となっています。（ただし、その後、本人の意思により退会した方もいます。）

残念ながら正式に退会を希望される方は、これはアンケートですので、別途お申し出ください。

4. 探探会の今後について、どのようにしたらいいと思いますか。次のうち、近いものをお選びください。

- ・OBを会として組織していても意味がないので、全面的にやめてしまった方がよい。
- ・会としての目的を持たない単なるOBの集まりとして、在籍年度と学部、住所等の名簿管理的な事務作業のみを行うようにした方がよい。
- ・基本的には今の形態で、会としての活動はその時々で工夫していくべき。
- ・その他（具体的に）：

5. 探探会の活動について、どんなことでも良いので、何かアイディア、意見がありましたら自由に書いてください。（このスペースに書き切れなければ別紙で書いてもらって結構です）

6. 会の仕事をやってみたい（やってもいい）という方がいましたら、その旨ここに書いてください。

ご協力ありがとうございました。

探検探査の会アンケート回答集計報告

(集計・報告 佐々木仁)

- 発送数 74
- 回答数 20 (郵送9、FAX7、eメール4)
- 回答率 27%

1. 氏名

- ① (公表時の匿名希望の有無)

匿名希望有…2	その必要はなし…16	無記入…2
---------	------------	-------

② 入学年度 (回答者)

- | | |
|---------------|---------------|
| ・'65年：5名 | ・'86年～'90年：4名 |
| ・'66年～'70年：1名 | ・'91年～'95年：5名 |
| ・'75年～'80年：1名 | ・'95年～…2名 |
| ・'81年～'85年：2名 | |

2. 会費について

1) 会費を滞納している人は、会費滞納の理由をお答えください。(複数回答可)

- ・お金がない…1
- ・払込先がわからない…0
- ・自分の会費の納入状況がわからない…3
- ・払う気はあるが、ついつい払うのを忘れてしまう…10
- ・会員になったつもりがない…0
- ・活動内容から見て払う気になれない…0

◇その他、意見：

- ・会費は請求されたときは払う気はあるのですが、すぐに払わないと払うのを忘れてします。請求が来るのが年末に近いと、忘年会などで物入りなので、払わねば、と思いつつ日時が過ぎていってします。

2) 会費を滞納している会員の扱いについて、どのように考えますか。

- ① 長期滞納者については、退会扱いにすべき。…8

(何年くらいの滞納で?) 3年…1
 5年…6
 10年…1

- ② 会費の滞納を理由に退会にすべきではない。…8

③ その他…4

◇①に関する意見

- ・会員としての意識が無いのでは意味がない。会報を送ってもらったり会費を納入することは最低のこと。行事に参加できるか否かとは別のこと。
- ・滞納3年で督促状、5年で意思確認のうえ退会手続き、としては。
- ・会費納入の意思表示がない人は退会でいいと思います（条件は、丸五年一度も納入をしない人）。
- ・まあ、5年も払わない人は退会でしょうね。もちろん会報、請求書（会費納入願い）などの郵便物が届いているにも関わらずの場合のみとして。そのかわり会費を払うだけのメリット（面白さ）のある会にしないといけませんね。
- ・再度意思の確認が必要かも。返事なき場合は退会と見なしても・・・。

◇②に関する意見

- ・OB会であるので滞納者でも退会にしない方が良い。催促は毎年する。毎年請求をして、会報等を送り続ける。
- ・いきなり退会処分にせず、一旦本人の意向を聞いてから、本人が払うことが可能な金額を払ってもらう方が良い。
- ・会費の滞納を理由に退会させてしまうと、今の現状だと（何年で線を引くかにも依るが）会員が激減してしまう。探探会はOBのうち有志の人の会だが、これまでOBの大半が名を連ねていた（実質的にはOB会的な意味合いがあった）ことを考えると、とりあえずOBを組織しておく（？）ためにも、会費を理由には退会させない方がいいと思う。ただし、あまり長期の滞納者は自分がOBであるという意識も薄いだろうから、改めて探探会会員継続の意思確認を行う。
- ・会費の滞納を理由に退会にすべきではないが、ただし5年以上滞納している会員には会員継続の意思確認をするなどの措置は必要かと思います。

◇③に関する意見

- ・むづかしいところだ。1回も納めていない人には、他の会員の費用で印刷代、通知などの費用を支出している。個別に対策を考えた方がよい。振込などめんどうなので滞納しているのが主な理由だと思うので、取りたてに行く。また納めやすくするのを考える。
- ・滞納金額が高額になった場合は分割などして納入すべき。
- ・自分が3年分滞納しているので、申し訳なく意見は述べられません。

3) 会費について意見がありましたら自由に書いてください。

◇寄せられた意見

- ・ 5年払い、10年払いなど、一括払いを勧める。
- ・ 進交会（市大の卒業生同窓会）がやっているように、永続会員制をとることも考えられる。会費徴収や振込などの手数が1回ですむ。例えば、会報年1回約50円、会報送料190円、総会通知80円+ハガキ50円、その他20円で年間1人費用を最低840円として、永続会費3万円で35年分、4万円で47年分になる。不足したらカンパなどの形で集めればよい。
- ・ 会計の係として、面倒かもしれないが、会計報告や、その年の会費納入率などを明らかにすること。（こちらが意識していないだけで、毎年やっていたらゴメンなさい）
- ・ 難しい問題です。会の再建において何らかの対応を決めねばなりません。
- ・ 私は2度払いをしている時期がありました。（5～6年前？）会計担当者というより、会全体の活動が停滞（混乱）していた時なので仕方がないですね。
- ・ 会報の回数を増やすなど、会員の特典を増やすないと、滞納者は相次ぐのではないか。
- ・ 年会費3000円は社会人にとっては高いとは思わないが、現在の活動内容からすればもっと安くなると思う。ただし、会費を下げても払わない人は払わないと思うので、会計担当としては額は据え置きでも仕方ないとも思う・・・。
- ・ 会費節約のために総会の案内の送付、出欠席の返事を郵送、メールの希望をとつて希望者はメールのみにしてはどうでしょうか？ちなみに、私はメールでのやり取りのほうが葉書を出す手間が省けるので楽でいいです。
- ・ 基本的に会費はOB会としての組織活動（事務、管理）費にあて、現役や会としての遠征等への経済的援助は、その都度カンパ等を行うのがよいのではないかと思います。
- ・ 社会人であれば年3000円の会費はそれほど負担でないと思います。滞納する理由がよく分かりませんので今回のアンケート結果を見てみたいと思います。

3. 会員継続の意思の有無

あなたが今後も探探会の会員を続けていくかどうかについて、率直な意見をお聞かせください。

- ・ 今後も探探会の会員を続けていく意思がある。 … 15
- ・ 探探会があるのなら、入っていてもかまわない。 … 2
- ・ 活動が今のままでは入っていてもあまり魅力を感じないので、退会したい。 … 2

- ・探探会の活動内容如何に関わりなく、退会したい。…1

◇その他の意見

- ・新規に卒業する人が探探会に入るかどうかについての意思確認（入会届）をきちんと機能するようにシステム化すべき。

4. 探探会の今後について、どのようにしたらいいと思いますか。次のうち、近いものをお選びください。

① 会として組織していても意味がないので、全面的にやめてしまった方がよい。…0

② 会としての目的を持たない単なるO Bの集まりとして、在籍年度と学部、住所等の名簿管理的な事務作業のみを行うようにした方がよい。…1

③ 基本的には今の形態で、会としての活動はその時々で工夫していくべき。…1 4

④ その他 …5

(④「その他」の具体的な意見)

- ・再度、現役を会に入れる（分科会的に）方がよい。現役との接点がなくなった会では、会の存在意義が薄れる。

- ・続けたい人がいる限りは廃止すべきとまでは思わない。これまでのように年1回会報を作成しても結局は会費との関係があるので、結果としては上の（選択肢中の）名簿管理程度になるのではないか。

- ・現役が何かやりたいときに活動を金銭的にサポートできるように、探探会は継続したほうがよいと思います。そのためにも、現役の具体的な年間活動状況などは知りたいです。

- ・年1回集合、年1回（もしくは2回）会報発行。積極的な活動は難しいと思うが、探探会があることでO Bとしての自分を自覚します。

- ・情熱のある有志が具体的に山行なり探検活動をする会として存続すれば良いと思います。あとは、自分が活動しなくても、探検活動への興味を失っていない人、金銭や情報等の具体的なサポートをしたい方が会員であれば良いのではないでしょうか。

◇4. ①～③についての意見

- ・若いO B会員が卒業後も何らかの活動をする時の発表の場と何らかの支援が出来る場として、また現役部員の活動状況の報告、支援などが出来る場として、存続できればよいと思いますが。

- ・淡々と組織を維持し、現役部員、O B一体となったプロジェクトを立ち上げる機会があれば、探探会としてできる限りの支援をするような会であれば良いと思う。

- ・探探会は探査会と探検部のOBの近況など情報交換の場として私は必要だと考えています。また、現役が遠征などを企画したときには、それを後援する組織としても重要な役割があると思います。
 - ・探探会は、会員の世代が異なっても、かつて市大探検部に在籍し、学生時代に探検・冒険活動に関心を寄せたという点で共通のバックボーンを持つ者の集まりであり、今は活動から離れてしまっている人が多くても、会員相互で親睦を図ることは意味があると思う。
 - ・現役とOBをweb（インターネット上のホームページ）でつなぐ。インターネットを活用し、OBは現役に対し活動費の助成等を行い、現役は活動計画や活動後の報告を義務づける、などを考える。
 - ・事務方の負担と経費を少なくするための工夫は必要だと思います。このようなアンケートや、総会の出欠などは極力電子メール等を利用することで、負担は少なくならないのでしょうか。
 - ・探探会に参加し続ける人は、事実上その会が具体的な活動がなくても、心のどこかで「探検」というものに関わりを持ち続けたいと思っているのかな。
5. 探探会の活動について、どんなことでも良いので、何かアイディア、意見がありましたら自由に書いてください。

◇寄せられた意見等

- ・総会等は毎年同じ日時（大学祭の時など）にしておいた方が良い。
- ・OBの多くが退職、転職の時期に入っているので、その特集を会報でやってみたら？
・ホームページを立ち上げ、掲示板を再開する。
- ・とりあえずはできることからえていった方が良い。探探会でホームページを作成してOB間の交流、連絡に利用するとともに、現役のページを設けて現役の活動を知らせてもらう。そして、現役との交流や、できれば現役の援助を行う。
- ・インターネットで探探会のホームページをつくり、掲示板などで情報交換が出来たらいいなと思います。
- ・これまでの活動を少しずつでもよいのでデータベース化し、現役でもOBでも知りたいと思ったときにそのデータを閲覧することができるようになれば、そこから現役とOB、またはOB同士で、技術や情報の提供という場が生まれやすくなるのではないかと思います。ただ、これをやるには、たいへんな作業が必要になりますが…。
- ・やはりwebサイトを作らんといかんですね。会報は面白いですがリアルタイムで誰かが何かやっている情報があれば触発もされるでしょう。以前の混乱をふまえて会員のみにパスワードを通知するとか、三浦研前羅針盤（探検部OBのホームページ）編集長兼管理人と話して制作に協力したくおもいます。がんばりましょう。

・関東エリア以外の会員が協力できる会の活動は何かないでしょうか。

○・ハイキング、キャンプなど、気軽にできる活動が必要?

○・年1回、簡易キャンプ。会報記事は、投稿以外に「友達の輪」式に次の人に指名していく。事務局については2年に1回位で下の代に移す持ち回り制にしてはどうでしょうか。(選出が難しければ部長、副部長(現役時)を原則とする。)

○・今どんな活動をしているのか、全然わからないです。

○・たまに誘い合って山とかに行ってもいいかもしれません。

6. 会の仕事をやってみたい(やってもいい)という方がいましたら、その旨ここに書いてください。

◇寄せられた意見

・やってもよい

・事務局員の人数を大幅に増やすのであれば、事務局員になるのはやぶさかではない。個人で任されると、必要なときに尽力できない可能性がある。

・こうした事務局的なことを一人でやるのは、やはり大変です。だれもが同じように忙しい中、探探会の雑務をやっているのだから、通知等を受け取る側の人もせめて返信ハガキくらいは出して欲しい。あとは、発送業務を軽減するためにも、eメールの活用を図りたい。

・総会を含め、体をそちらに持っていくことがなかなかできない状態ですが、事務的なことで、メールやFAXを介してできる仕事があれば、やってもよいです。

・自分にできる範囲のことであれば、やります。横浜には、ほとんどいけませんが…。

・できることなら協力したい。但しいつも総会の時仕事とぶつかってしまう。

*アンケートに回答してくれた皆様、ご協力ありがとうございました。

気になるのは、残りの4分の3近くの方々がどう考えているのかというところです。

本当は、普段返信ハガキ等の反応がない方々からの回答が、もっと多く寄せられるのを期待していました。

この集計結果を見て、思うことなどがありましたら、何でも遠慮なく、探探会のホームページの掲示板に書き込んでみてください。(インターネットに接続できない人は郵便で送ってもらっても結構です。)みんなで知恵を出し合って、探探会を盛り上げていきましょう。

2001年度 探検探査の会 会計収支報告

(2001年4月1日～2002年3月31日)

a) 収	入	(単位:円)
◆ 会 費 収 入	-----	78,000
◆ 利 息	-----	70
◆ 小 計	-----	78,070
b) 支 出		
◆ 郵 送 代	-----	25,480
◆ 文 具	-----	3,594
◆ 会 議 費	-----	3,425
◆ 会 報 製 本 費	-----	117,429
◆ そ の 他	-----	2,871
小 計	-----	152,799
◇ 40周年文集への繰り出し	-----	
支 出 計	-----	152,799
c) 单 年 度 収 支	-----	▲ 74,729
(= a - b)		
d) 前 年 度 繰 越 金	-----	250,598
e) 収 支 計	-----	175,869
(= c + d)		(翌年度へ繰り越し)

2001年度は、支出については会報「探検・探査」のページ数が増えたこと、及びこれまで印刷製本を依頼していた会社を変えたことから、会報の印刷代が増となった。

なお、田村康一氏が作成した一連の印刷物（「探検・探査」の枝番号分、「羅針盤Radical」等）は、探探会とは一切無関係であり、この会報製本費の中には入っていない。

(会計担当 佐々木 仁)

2002年度 探検探査の会 会計収支報告

(2002年4月1日～2003年3月31日)

a) 収 入 (単位:円)

◆ 会 費 収 入	-----	487,000
◆ 利 息	-----	18
◆ そ の 他 収 入	-----	3,724
小 計	-----	490,742
◇ 40周年文集会計からの戻り	40周年文集会計収支報告(H14年度)を参照。	25,593
		516,335

b) 支 出

◆ 郵 送 代	-----	12,830
◆ 文 具	-----	3,533
◆ 会 議 費	-----	5,090
◆ 会 報 製 本 費	-----	0
◆ ホームページサーバー代	-----	13,600
◆ そ の 他	-----	105
小 計	-----	35,158
◇ 40周年文集への繰り出し	-----	270,000
支 出 計	-----	305,158

c) 単 年 度 収 支 ----- 211,177

(= a - b)

d) 前 年 度 繰 越 金 ----- 175,869

e) 収 支 計 ----- 387,046

(翌年度へ繰り越し)

2002年度は、収入については、12年度に作成した40周年記念文集の経費が未清算になっていたこともあり、会費を滞納している会員に対し、督促を行った。その結果、会費収入の大幅な増となった。

支出については会報「探検・探査」を印刷しなかったため、会報の印刷費及び発送費(郵送代)の分が減となった。また、探探会のホームページの開設に伴い、新たにホームページサーバー代が計上された。

(会計担当 佐々木 仁)

40周年記念文集(EXPEDITION IV)会計収支について(H13年度)

(単位:円)

1) 総 経 費	(経費としては、平成12年度に出費があった)
◆ 文 集 印 刷 代	330,750
◆ 文 具 代 ・ 諸 雜 費	6,255
◆ 文 集 発 送 代	26,030
合 計	<u>363,035</u> ... ①

2) 収 入 (...平成13年度分)

◇ 前 年 度 か ら の 繰 り 越 し	20,655
◆ 寄 付 (1名)	5,000
◆ そ の 他 収 入	148
◆ 探 探 会 口 座 よ り 繰 り 入 れ	0
合 計	<u>25,803</u> ... ②

3) 支 出 (...平成13年度に支出した分)

◆ 田 村 さ ん へ の 支 払 い (第2回)	300,000 ... ③
◆ 送 金 手 数 料	210
合 計	<u>300,210</u> ... ④

4) 収 支

◇ ②-④(収入-支出=残額)	▲ 274,407
◇ 会 計 佐 々 木 が 立 替 え (④)	300,210 ... ⑤
差 引 (形式収支)	25,803

・40周年文集に係る経費は、当初(H12年度印刷時)、その全額を田村康一さんが一時立て替えた。(①)
 ・そのうち、63,065円については、12年度において、文集への寄付、探探会の会費収入等から田村さんへ返済(12年度 40周年文集会計収支報告<会報 探検・探査9号>参照)。

・なお、田村康一さんの探探会退会に伴い、立替分の残り300,000円については、佐々木仁が個人的に立て替えて田村さんに返済した。(③及び⑤)

(会計担当 佐々木 仁)

40周年記念文集(EXPEDITION IV)会計収支について(H14年度)

(単位:円)

1) 総 経 費	(経費としては、平成12年度に出費があった)
◆ 文 集 印 刷 代	330,750
◆ 文 具 代 ・ 諸 雜 費	6,255
◆ 文 集 発 送 代	26,030
合 計	<u>363,035</u> ... (1)

2) 収 入

◇ 前年度以前からの繰り越し	25,803
◆ 寄 付 (14年度)(1名)	30,000
◆ そ の 他 収 入	0
◆ 探探会口座より繰り入れ	270,000 ... (2)
合 計	<u>325,803</u> ... (3)

3) 支 出 (清 算)

◆ 佐々木立て替え分の清算	300,210 ... (4)
合 計	<u>300,210</u>

4) 収 支

◇ ③-④(収入-支出=残額)	<u>25,593</u> ... (5)
-----------------	-----------------------

- ・40周年文集に係る経費は、当初(H12年度印刷時)、その全額を田村康一さんが一時立て替えた。(1)
- ・そのうち、63,065円については、12年度において、文集への寄付、探探会の会費収入等から田村さんへ返済(12年度 40周年文集会計収支報告<会報 探検・探査9号>参照)。
- ・なお、田村康一さんの探探会退会に伴い、立て替え分の残り300,000円については、佐々木仁が個人的に立て替えて田村さんに返済した。(13年度 40周年文集会計収支 参照)
- ・14年度開催の臨時総会において、40周年文集の経費の未清算分(佐々木仁立て替え分)に探探会会費収入を充てることが了承されたため、探探会口座より繰り入れた。(2)
- ・なお、最終的に生じた残金については、探探会口座に戻した。(5)

(会計担当 佐々木 仁)

会費納入のお願い

会員各位

2003年3月31日現在での会費の納入状況は、「会費納入状況」のページに記載のとおりです。未納金のある方は、無理のない範囲でかまいませんので、口座振込にて納入くださいますようお願い致します。

☆口座への振り込み

●銀行 三井住友銀行 金沢八景支店（普通預金）

店番号：567 口座番号：5409998

口座名：横浜市立大学探検探査の会

●郵便局 記号：10090 番号：18675911

口座名：探々会

※銀行口座は、銀行名が変更になりましたのでご注意ください。

会費は1年分が3,000円となっております。

納入状況については間違いないよう万全を期したつもりですが、疑問やご不明の点がございましたら、会計担当の佐々木(仁)までお問い合わせください。

なお、会計担当の佐々木仁が近日引っ越しの予定のため、混乱を避けるために、現金書留による送金はしばらくの間停止させて頂きます。お手数をおかけしますが、口座振込で送金頂きますよう、よろしくお願いします。

入学 年度	探検・探査の会 会員名簿 【入学年度別一覧表: 2003年10月現在】						
	年	姓	名	性別	年齢	学年	会員登録
1955	松橋						
1956							
1957							旧探査会の人は松橋氏一人になった
1958							
1959							
1960	大野						
1961	河合	木村	宮崎				
1962	篠原	吉野					
1963	高松						
1964	大江	大下	折井				
1965	井笠	小澤					この年代層は相互のつながりが深いので、
1966	成田	藤山					OB会には協力的な人が多い
1967	紙村	丸茂	水尾	山口			
1968	小森享						
1969	三浦茂						
1970	川尻	小島	禪州				
1971							
1972	高橋						
1973	山中						
1974	小山						
1975							この年代層が薄い(当時の探検部も停滞していたが、
1976	大原						彼らが踏ん張っていた)
1977	野口						
1978							
1979	鈴木元	塙本義					
1980							
1981	熊沢						この年代から探検部が復興した
1982	太田	佐々木鉄	杉崎				
1983	浅原	内野	酒井				
1984							
1985	大槻	鈴木広	高梨	本多			2度、現役からOB会設立の動きがあったが、
1986	大沢	桑村	小嶋健				消滅した
1987	佐藤修						
1988	佐々木仁	室賀					
1989	伊藤源	三浦研	吉見				
1990	児玉	小森啓	立木	藤本			天山隊の遠征、事故
1991	稲田	穂積					OB会の発足
1992	伊吾田	伊藤栄	小林				
1993	小原	松林					
1994	池沢	金子智	鈴鳶	高井	平塚	星川	間瀬
1995	戸田						
1996	榎本	岡本	関口	塙本裕	萩野		
1997	片平	佐藤明	千葉	中村	福江	本間	室
1998	門間	下田					<84名>
1999	以下、現役の名簿より転記(入学年度が定かでないため、名簿順に記す) 熊原、本多肇、尾形、勝野、田辺、綱島、今井陽、岡原、金子裕 黒川、墨谷、田口、田中、伊藤裕、井上、魚住、小此木、讀岐、 清水、竹田、山之口、稻木、今井美、小平、小濱、野沢、渡 _i <27名>						
↓ 2003							OB会も活発であった } ポリビア隊の遠征会の混乱

～私案～ 探検・探査の会(OB会)が抱える問題点と解決策

川尻哲夫(70年商学部入学)

- 総会案内にも記しましたように、OB会の運営は極めて難しい状況にあります。

当面は、私が事務局を担いますが、期限には限界があります。

前々会の田村君、前回の佐々木君、そして今回の私と同じことを次回の役員が担うことは
その方に過剰な負担を与えることが予想され、担い手がいなくなります。

- 今、事務局運営の負担を軽くしつつ、OB会と探検部の両方の活性化を図ることが求められています。

しかも総論でなく、具体案が必要です。以下は、私の具体案を箇条書きにしました。

来年の春までにこれをタタキ台にして、皆さんの意見を集めつつ、より方法で活性化を図りましょう！

1. 何が問題か？

- (1)事務局のやり手がいない(⇒今後、役員を引き受けるOBはいるのか?)
- (2)会費の長期滞納者が未だにいる(⇒負担の不公平の早期解決！)
- (3)仮に名簿上の会員が増えても、事務量が増えるのみ(⇒収支は赤字になる)
- (4)会員の階層にスキマが出て来た(=年代のつながりが途切れて来た)
- (5)会報の原稿が集まりにくい(⇒内容のマンネリ化?)
- (6)総会参加者が減少傾向(⇒参加メンバーの顔ぶれが固定している)
- (7)OB会としての活動が停滞している(⇒会報発行自体が活動になった?)
- (8)個人的な行動に走った役員がいて、運営の混乱を招いた(本人の問題だけではなく、会にも原因がある)
- (9)現役との交流が減った(⇒活動支援が出来にくく、現役は卒業するとOB会に入るのか?)
- (10)長期的なビジョンが描けない(⇒何を目的に活動するのかをふりかえる時期に来た?)

2. このまま進むとどうなるか？

- (1)誰も役員になりたがらず、会の運営が困難になる
- (2)収支が赤字になり、経費を立替する役員が出る(昨年までの状況が再発する)
- (3)現役の活動支援ができず、関係が薄れて、現役は卒業してもOB会に入会しなくなる。
- (4)OB会の活動がいつそう停滞して、解散に追い込まれる。
- (5)現役の活動も停滞する(解散するかどうかは分からないが…)

3. どのように解決するか？

- (1)長期滞納者の会費の徹底徴収を行い、会員継続の最終的な意思確認を行う。
 - ・昨年末に行った電話での督促を再度行う(計30万円が戻って、個人的な立替分を返せた)
- (2)上記以外の滞納者には、文書で督促する。
 - ・併せて、会員名簿の整備を行う(連絡先不明者がかなりいる)
- (3)滞納者の問題がある程度解決できた段階で、05年を目処に会費の引下げを行う
 - ・年会費3,000円を1,500円程度までに下げられると予想する
(会の活動目的に関係するが、運営方法を改善することで可能とみる)
- (4)OB会の事務局を探検部に置き、探検部とOB会は一体である組織体を再度作る。
 - ・OB会発足当初は、現役が事務局的な役割を担っていたが、数年前から田村君が担うことで、現役との交流が薄れた(そして、田村君の負担も増大した)。
 - ・発送作業(会報、通信文が年2,3回ある)を現役と共同で担う仕組みを作ることで、役員個人の負担を軽減する。
- (5)両者の強みと弱みを補完しながら、両者の活動を活性化させる仕組みを作る。
 - ・OB会費の一部を探検部に振り向けて、活動資金に充当させる。
 - ・現役にOB会担当者を配置して、OBとのコミュニケーションを強める。
- (6)OB会の組織を見直す。
 - ・役員の役割を明確にする(組織と負担の平準化)
 - ・役員の年代層に偏りをなくす。
- (7)経費の削減を行う。
 - ・会報の印刷費の削減(安い印刷会社を選ぶ) ・通信費の削減(発送頻度を減らす)
 - ・会場費の削減(会議場は市大を借りる)
- (8)ホームページを活用して、情報交流を活性化させる。
 - ・試行しているホームページを公式ページにして、紙の情報から移行する。
- (9)当面の活動自体の見直し
 - ・来年のツバル隊等の支援活動を行う(カンパ、報道)
 - ・会報編集内容の見直し(会の活性化特集を組む)
- (10)長期ビジョンを策定する
 - ・但し、(1)～(9)を軌道に乗せてから着手する

印数 3戸

合計

発送は現役

田村君が主

* 現役は現役 = 朝日学年

④ 天山からの平成 → OB会

<編集後記>

■総会案内が速達で届き、封筒をあけるとまた封筒が入っていることで驚いた方がいたでしょう。

これは、決して通信費を無駄に使ったわけではなく、郵便局のミスが原因なのです。

投函は仕事のついでに、蒲田のポストに入れましたが、鎌田郵便局員が差出人と宛名人を間違えたため、9割近くの75通が私の自宅に戻って來たのです。

前夜は女房と徹夜で名簿作りと発送事務をしたにも拘らず、戻ったときは、女房は驚きと落胆で呆然としたとのことです。

しかし、直ちに地元の羽村郵便局に連絡を取って、「速達で再度、送るように」と指示をして、なんとか皆さんのところに届いたことでしょう。

無論、速達料、外の封筒、宛名書きは郵便局側の負担です。

■今号は、体裁を整えることに時間を振り向かれてませんでしたが、問題提起はしっかりしました。

特に、佐々木君が担当したアンケート集計と会費未納資料は、作成に時間がかかったようです。

さて、これから、OB会をどうするか、会費未納者をどうするか、探検部との連携をどうするか、などの問題を解決していかねばなりません。

私の改善案をもとに、半年かけて皆さんで議論していきたいと思います。

いずれにせよ、後ろ向きでなく、OB会も探検部も共に良い方向に進むような前向きの意見をお寄せ下さい。

■小森啓志君の尽力でホームページが4月から運営されています。

ホームページアドレス www/infinity.ne.jp/~tantan

メールアドレス tantan@infinity.ne.jp

これから、このホームページがOB会の運営でかなり比重が増えて来ます。

でも、パソコンを使わない（メールアドレスを知らせない？）会員も半数以上いるので、やはり紙による伝達は避けなければならないのです。

そこに、直面する問題があることを皆さんお考え下さい。

(川尻)

横浜市立大学 探検・探査の会（探検部OB会）

会報 第10号

2003年10月26日編集

2003年11月 1日発行

編集 川尻哲夫（1970年入学）

佐々木仁（1988年入学）

印刷：フジプランズ

東京都日野市旭が丘3-1

TEL:042-584-3580

FAX:042-582-7108